

鎮南浦領事館報告

外務省

3-0876

0174

明治二十二年三月三日 奉 旨 通 諭 奉 天 府 總 督 府 奏 請 開 港 事 由

大 臣 奏 請

機 密 第 十 九 號

清國內地ニ我商人ノ行商ヲ許スニ並ニ  
遼東地方ニ開港場ヲ設キ要請ニ關シ  
乞 諭 議 件

在鎮南浦日本商人將來ノ利益上ヨリ殊ニ必  
要ニ感スル所アリ左記ニ件 具申 業 間 可 然  
構會シ以テ清國、交渉方御盡力アランコトヲ  
希 望 仕 矣

- 一 清國內地ニ我商人ノ行商ヲ許ス事
- 二 遼東中左、三ヶ所ニ一ヶ所開港又ハ開市セ  
シムル事

- 一 安東縣 開市
- 二 大東溝 開港
- 三 大孤山 開港

在朝鮮國鎮南浦

日本領事館

以上

第一清國內地ニ我商人ノ行商ヲ許スニト  
其 理 由

清國內地ニ我商人ノ行商ヲ許スニト韓國内地ニ  
於ケルト同様ナルニ之ヲハ彼我ノ利益ハ論スルニ待  
ツス殊ニ我對清貿易上顯著ナル進歩ヲ加フルコ  
ト疑ヒナカルシ他地方ハ狀況ハ暫クテ措キ我鎮南  
浦ニ接近スル遼東奉天吉林等韓國ト接壤セル  
地方ノ狀況ニ依リハ我國生産物中ノ紡績絲  
木綿ニツキ、等目下韓國行商者ニ依リ内地ニ  
供給セラル、モノ其額多大ニシテ大孤山大東溝  
安東縣等海運ノ便アル地ニアリテハ清商ノ手

清國内地ニ  
行商ヲ許ス  
ニト韓國内地  
ニ於ケルト  
同様ナルニ  
之ヲハ彼我  
ノ利益ハ論  
スルニ待ツ  
ス殊ニ我對  
清貿易上著  
著ナル進歩  
ヲ加フルコ  
ト疑ヒナカ  
ルシ他地方  
ハ狀況ハ暫  
クテ措キ我  
鎮南浦ニ接  
近スル遼東  
奉天吉林等  
韓國ト接壤  
セル地方ノ  
狀況ニ依リ  
ハ我國生産  
物中ノ紡績  
絲木綿ニツ  
キ、等目下  
韓國行商者  
ニ依リ内地  
ニ供給セラ  
ル、モノ其  
額多大ニシ  
テ大孤山大  
東溝安東縣  
等海運ノ便  
アル地ニア  
リテハ清商  
ノ手

第 9363 號 受 封 印

總 督 府

奉 天 府

依り内外百領、輸入セラル、モノ多ク巨額ニ上ルガ  
故ニ(我生産物ハ其中多キヨトハシ)一朝本地ノ  
我商人ノ自由ニ出入スルモノ得ルニ至ラハ新ニ  
見セラル、清國人向高麗一程頻ニ併セテ将来  
ノ繁昌在シテ待ツキモノアリ以上即チ彼我ノ利益  
上我ニ行商ノ自由ヲ許サントシテ要請セントス  
理由ニ有之矣

第三清國遼東中左三ヶ所ノ一ノ開港  
又ハ開市セシムルコト

其理由

奉天吉林遼東ノ三省ハ牛莊(即チ營口)開  
港ニ依り物貨集散ノ便ヲ有スルカ如クナルモ遼東  
ノ地ハ中央峻嶒ナル山脈ニ劃セラル其一半ノ東

在朝鮮國鎮南浦

日本領事館

部地方ハ痛ク交通ヲ阻隔セラレ奉天省又彼  
摩天山嶺等山脈、縱横スルカ為ニ遼河ノ水運  
ニ依ラレテ却テ渾江流域ヲ下タリ鴨綠江ヲ  
利用スルニ便トナス所多ク吉林省ニ至テハ牛莊ト  
甚シク遠隔シ相関係ヲ作スト殆ト絶トシナリト  
云フモ不可ナカルヘシ清國ハ獨キニ吉林府ヲ以テ互  
市場トナシ浦塩始德ト陸路貿易ヲ為セルモ其  
利タル一小局部ニ止マリ前掲ノ港市ヲ開カセ  
廣ク内外ノ物産ヲ集散スルニ通セズ  
試ニ東清三省ノ生産物中有名ナルモノヲ擧グ  
蒲絲大豆木材等ニシテ而テ沙金ノ産出ハ其外  
ニ多ク量ナルモノアリ蒲絲並ニ大豆ハ盛況ハ之レ  
牛莊貿易ノ現状ニ徴スルモ該地方ノ状態推

シラ祭スルニ難カラサルベク木材ノ豐産ナルニ到テハ  
 鴨綠江流域内樹身多ク深林殆ト到ル處ニ  
 見サルナク其運搬ニシテ甚ク容易ニシテ(夏季ハ  
 水流ニ依リ冬季ハ堅氷ノ上ヲ棧又ハ人カツテ滑走  
 セリ)價格ハ伐リ出シ運搬等ニ要スル勞力費ヲ  
 拂ハズル如キハ恐ラク世ノ稀シト見ル所ナラン而テ  
 是等ノ買出輸出ヲ為スニトハ本邦商人通商  
 ノ材料ニシテ韓國ノ農産物輸出ト相待テ  
 將來旺盛ノ極ニキハ豫期スルニ難カラス故ニ遠  
 東中(通)苗ノ港市ヲ開キ是等ノ無限ノ産物  
 ヲ廣ク世間ニ紹介スルハ彼我ノ利益ナリト爲ス  
 所以ニシテ即チ安東縣大東溝大孤山中熟  
 レカサ一ノ開港市ト爲スレトスル理由ノ要點  
 在朝鮮國鎮南浦 日本領事館  
 ニ有之矣

附記

本邦人ノ渡航ニ便ニシテ且ツ純業ニ容易トスル所  
 一恐ラク韓國ノ如キハナク而テ清國貿易ノ巨利  
 ルニト由來世人ノ唱道スル所ナルニ本邦人ニシテ彼ノ  
 出ニ赴ク者比較的雖少ナルハ別ニ何等事情ノ  
 存スルモノナラズバアル(シ)然リト能一端韓國ニ渡  
 航シ我鎮南浦等ヲ漸次利ヲ進フテ前陳  
 セル如キ新開港市ニ進入スルハ香港上海天津  
 芝罘等業ニ既ニ諸外國人ノ充分ナル勢力カ  
 漲リ米事(整頓)告ケタル所ニ渡航經營ス  
 ルヨリ之容易ナル(キ)ハ自然ノ勢ニシテ彼ノ重慶  
 沙市等ニ於ケルモノトハ又其結果同日ニシテ也



ル一カヲサレモアラン

以外東清三省ニ我勢力ヲ扶植スル政治上ノ  
利害並ニ本件ノ是等ニ及ハズ影響ノ如何ハ  
茲ニ掲クル要アランキヲ信ス

傳フル所ニ依リハ北清事變ノ結果清國内地  
開放ノ實ヲ見シ之知ル一カヲスト就テ考フルニ本  
件ノ具申中或ハ其要ナルキヤラシク得共  
在當該在留本邦商人ノ將來ニ関シ最モ緊  
要ナル事態ニ有之矣得者得ニ進達致美次第  
ニ有之差シ又傳説ノ如ク清國内地開放ニ至  
ル我政府ハ先ツ直シク前陳ニテ所ノ一ニ帝國  
領事館ヲ設置シ我商民ノ渡航ニ便スルハ又  
最モ急務ニ有之ト思考致シ矣

在朝鮮國鎮南浦

日本領事館

右稟申乞 詮議 敬具

明治廿二年十月十九日

在鎮南浦

日本領事館事務代理 桐野 弘



外務大臣 加藤高明 殿